

子どもたちの言語能力を育てるうえで、思考や表現に向かうための基礎となるのが、知識技能の定着であると考えています。

たとえば、語彙や文の構造、漢字・語句の理解がしっかりと身についていることで、読み取った内容を自分の言葉で表現したり、友達の考えと比較して深めたりといった、より高いレベルの言語活動をスムーズに取り組めるようになります。反対に、基本的な読み書きや語彙理解が不十分だと、授業の中で「考える」「話す」「書く」といった活動に負担を感じやすくなります。つまり、知識・技能の定着は、“言葉で学ぶ授業”を支える基礎体力といえます。その意味でも、宿題や、寺子屋などで基礎的な力をしっかりと身につけることは、授業内での「思考・表現の質」を高めることに直結するといえます。

〈中央小の宿題〉

基本の宿題は、①音読②漢字③算数の問題演習④算数の予習で、それに加え、週に1度、自主学の宿題を出しています。

①音読

音読の宿題は、低学年では主に、保護者に聞いてもらい、サインを音読カードなどにもらう形で行っています。読をしている様子を動画で撮影したり、音声を録音したりしたものをロイロノート上で提出し、教師が確認するようにしているクラスもあります。

②漢字

漢字ノートに漢字ドリルの文を書き写したり、漢字の穴埋めプリントをしたりしています。漢字プリントを行うときには、プリントの半分は、文章の読解やローマ字の練習など、子どもにつけたい力に応じて、様々な課題を取り入れるようにしています。

③算数の問題演習

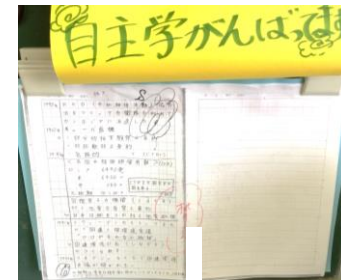
主な課題は、プリントで進めています。プリントの内容は、その時に学習している内容だけでなく、これまでに学習してきた内容のなかで、特に定着が低いところや、次の単元の学習で必要となる内容のものなどを意識的に取り入れています。

④算数の予習

毎日、算数では予習の課題を出しています。明日、学習する問題を見たり、解いたりして、既習事項との差や自分がわからなかったことを詳しくコメントして書くようにしています。予習をすることで、学校で行う授業の理解がより深まります。

〈自主学〉

週に一度、自主学の課題を出しています。調べたいことを自分で調べまとめたり、自分が過去に間違えた問題について、復習したりしている児童が多いです。何をしたらよいか迷う児童もいるので、自主学ノートのコピーを掲示し、児童の参考にできるようにしています。



〈宿題の丸付け〉

宿題の直しをきちんとさせることも知識技能の定着のために必要な要素です。宿題の丸付けが担任だけの負担にならないように、担任でない教員も教室に入って宿題の丸付けを行うように、体制を組んでいます。

〈寺子屋タイム〉

寺子屋タイムは、知識・技能の定着を図ることを目的に設けられた学習支援の時間です。給食準備の時間を利用し、当番でない児童の中から希望者を対象に、特別教室にて実施しています。担当教員が常駐し、主に算数の基礎的な内容の復習や定着を中心とした学習支援を行っています。児童が「わかる」から「できる」へと自信をもって進んでいけるよう、無理のない範囲で継続的に取り組める時間にしています。

